

2013年7月6日（土）

レポート by 吉松

今日はツアーのメインイベント「利尻富士登山」だ。鴛泊コース往復、約12時間の登山行にチャレンジする。8人のメンバーのうち、能勢邦子さん、布目さん、川島さんの3人は、一寸遠慮をして8合目長官山辺りまで行き、そこで引き返すことになっている。

利尻島の朝は早い。3時に目を覚ますと既に空はうっすらと明るくなっていた。天気は悪くないようだ。炊きたての暖かいおにぎりをリュックに詰めて、3時35分には民宿手配の車で利尻北麓野営場に向かった。



民宿「旅の宿 しらかば」から10分ほどで北麓野営場に到着。既に数組の登山パーティーが来ている。

我々は軽く朝食を取り、靴ひもを締め直し柔軟体操もして、おさおさ準備に怠りは無い。

利尻富士の山の管理は厳しい。

- ・携帯トイレを使う
- ・ストックにはキャップを付ける
- ・植物の上に座らない、踏み込まない

これが、利尻登山ルール。左の写真は携帯トイレ。早い話、携帯おしめがこのビニール袋の中に入っている。

これも食べ物と一緒にリュックに詰めて背中に背負い、外来種持ち込み防止のために靴の泥を洗い落として、4時15分にいざ出発。

登山道とは言えないような整備された道をゆっくり10分ほども歩くと、鴛泊コースで唯一の水場「甘露泉水」に着いた。そこでは、まろやかで冷たい水が流れ出していた。日本百名水に数えられている。

ペットボトルなどに汲んでこれから登山に備えた。





甘露泉水から先は登山道らしくなる。ストックなどを取りだして、最後の装備チェックを行った。



木々に囲まれたなだらかな道をゆっくりと歩く。生憎山には雲が掛かっているようだ。日は昇ったはずなのだが、木漏れ日は我々まで届いてこない。

前後に他のパーティーが見えないなかを、山を一人占めとばかりに歩くことが出来た。



5時

30分ほど歩いて水補給のために小休止。標識には4合目とある。急こう配ではないのだが、かなり汗ばんできた。



小野寺さんが「虫！虫！虫！」と騒ぐので見てみれば、確かに3ミリほどの虫が腕を這っていたが、何の虫やら分からず仕舞い。兎に角写真におさめました。



5合目を過ぎた辺りから少し勾配がきつくなってきて、ストックが役に立ってきた。



幸運なことに木々の間から、時々日が差してきた。



勾配がきつくなってきたところで、長官山までを目標とする能勢邦子さん、布目さん、川島さんと、頂上を目指す他の5人(能勢さん、小山さん、高橋さん、小野寺さん、吉松)は行動を別にすることになった。

3人とは手を振って別れて、下山の時に再び合流することにした。



6時10分

第一見晴台(6合目 標高760m)に到着。



5分遅れで3人組も追いついて一緒に写真におさまつた。この時は雲が流れて、視界が広がつた。

後ろに見える頂き辺りが能勢夫人、布目さん、川島さんが目指す長官山(1218m)だ。



山頂を目指す5人は先に出発。

7合目(895m)辺りからは胸突き八丁となり、息がはずむ。



登山道に咲く花々  
ヤマブキショウマ  
ウラジロタデ  
イワオトギリ



7時10分  
第二見晴台に到着。長官山はすぐ上だが、雲  
がかかり良く見えない。



路傍の花々  
ウコンウツギ、ハクサンボウフウ？  
チシマギキョウ





7時40分

第二見晴台から約30分で8合目の長官山(1218m)に到着。雲さえなければ利尻山の全容が望めるのだそうだが、雲がかかっていて今日は何も見えない。



ハクサンチドリ



8時

尾根を20分歩いて利尻山避難小屋に到着し、しばし休憩。ここでは水補給とトイレタイム。

避難小屋そばに左写真上のようなドア付きの簡易トイレブースが設置されている。持参している簡易トイレをビニール袋(左写真下)から取り出して小用をたすことになる。男性はトイレブースを使わなくても全く不自由はない。

鶴泊コースには、簡易トイレブースが3ヶ所設置されていて山の環境を守っている。





避難小屋を出発して 30 分ほど登ると突然青空が出てきた。



我々が持てる力を振り絞って登る利尻山頂上付近が、眼の前に現れた。その威容に圧倒された。



8時45分  
9合目到着。目指す頂上が見える。  
後ろに見える設備は簡易トイレベース。



「9合目、ここからが正念場」の看板が立ててあった。実際その通りであった。



9合目からは岩場とガレ場が続く登りだ。そして参道の岩場は高山植物の宝庫でもある。最後の力を振り絞って登ることにした。



参道の高山植物  
ウコンウツギ



高山植物  
ミソガワソウ



高山植物  
エゾツツジ



一瞬山肌を覆っていた雲が流れるとき、そこは一面のお花畠であった。黄色い花々が咲き乱れていた。  
遠くには雪渓も現れた。



ガレ場が続く。なかなか厄介なガレ場だ。一歩進むとズルッとずり落ちるので中々進まない。しかもその都度足を踏ん張るので結構エネルギーを消費するのだ。



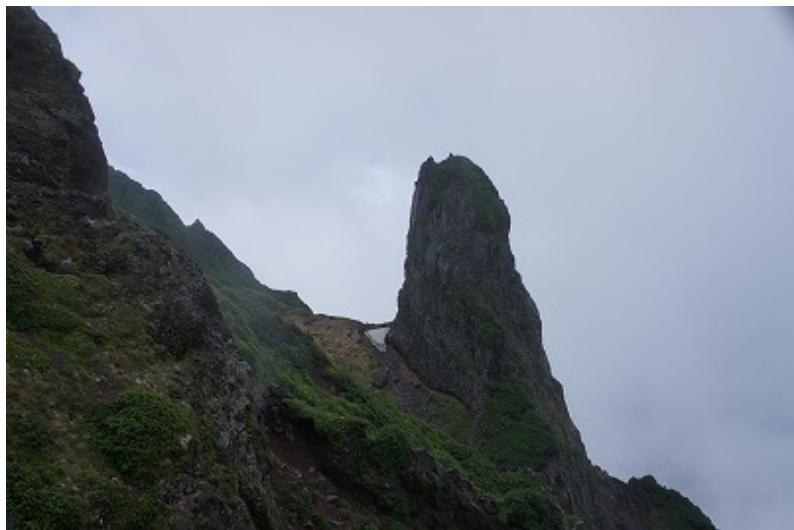
途中何回も休憩して、一息入れる。



ガレ場の場所によっては、写真のように足場が養生してあるところもある。



写真のような急斜面は養生してなければ大往生するだろう。



うまく雲が流れて、突然右手にローソク岩が現れた。頂上付近の奇岩だ。



尾根を越えれば頂上だ。  
向こうに見えるのが頂上の社である。





頂上付近では、箱庭のように高山植物がびっしりと岩場に張り付いていた。

エゾツツジ



これも岩場に咲く可憐な花。  
イワヒゲ？



10時

山頂(北峰 1719m)の大山神社に到着。  
南峰は目と鼻の先に見えて北峰よりわずかに高く1721mある。

そこが本来の利尻山最高峰であるが、  
足場の崩落が進んで危険なので行くことは  
禁じられている。



大山神社前で我が「くまさん会」の旗を翻して、登頂記念の写真を撮った。

\*後で仕入れた情報によると、この大山神社は我々が泊っている民宿「しらかば」のご主人が、木材等を運び上げて建立したものだそうだ。



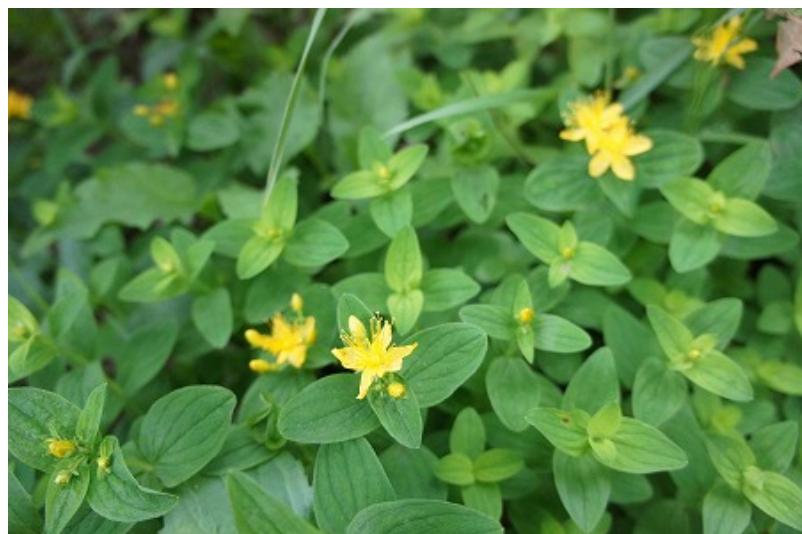
時間は早いが、狭い山頂で昼食を楽しむ。



付近の花々  
ゴゼンタチバナ



エゾノシシウド  
もしくは  
ミヤマゼンコ  
もしくは  
ハクサンボウフウ  
など・・  
(見分けは難しいです)



イワオトギリ



ヤマブキショウマ



10時30分

下山開始。ガレ場は登り以上に下りの時方が難物だ。

用心深く足場を確かめながら下って行った。



イワベンケイ



エゾツツジの群生と雪渓



ハクサンイチゲ



キバナコマノツメ



＊＊ さてさて、話変わって長官山を目指して  
ゆっくり登っていた能勢夫人、布目さん、川  
島さんたちはと言うと・・・・。

7時30分  
三人仲良く順調に登っていました。  
第二見晴台でのスナップ。



8時20分

8合目 長官山も難なく踏破。



9時45分

更に足を延ばして9合目まで踏破。

3人で意気揚々と「くまさん会」旗を広げて写真に収まっていたのでした。



ガレ場にチャレンジするのは敬遠したようだが、ガレ場に足を踏み入れて余裕の写真を1枚。



そしてまた、1枚。



9合目周辺を散策しながら我われが下ってくるのを待っていて下さいました。11時55分、8名が再び合流。



今度は全員そろって記念写真に収まりました。



利尻山は登りよりも長いくだりが堪える。歩いても歩いてもダラダラとくだりが続くのだ。

さすがに嫌になり茫然自失となって、テンデンバラバラに大休止。



16時

やっとの思いで利尻北麓野営場に帰着。早速「携帯トイレ回収箱」にリュックの汚物を廃棄。

いやはや下りの長かったこと。地元の人もこのいつ終わるとも知れぬような下りにはまいってしまうそうだ。



民宿の車の迎えが来るまで、あずま屋で休憩。



12時間の登山を終えて民宿に戻り、いの一番で温泉に飛び込んだ。そのあとに待っているのは冷え冷えの生ビールだ。

今日もたらふく海鮮料理を食うぞ。



ご飯にウニをたっぷり乗せて、ウニ丼に万歳！！

こうして利尻登山も美味しい食事も心行くまで満喫しました。

地元の方の予想では、明日の早がたは晴れ渡るそうだ。利尻富士の全容を望むことが出来るかもしれない。誰の行いが良かったのか知らないが、我われはついているのだ！！！